

第 11 回富山県広域消防防災センター運営委員会 主な意見

日時：令和 6 年 5 月 22 日（水）13:30～15:00

場所：富山県防災危機管理センター 2 階中会議室

<主な意見>

- ・VR（仮想現実）だけでなくAR（拡張現実）というものもあり、実際に導入される施設が増えており、そちらの導入も検討してほしい。
- ・住民の方や消防職員向けの訓練指導において、地震が起きたときに実際に何をしたら良いか分からないという方が多いので、とにかく地震を体験してもらうということが大切。四季防災館にも地震体験はあるが、近年はインパクトを重視する傾向になるので、インパクトを強くする方向で検討してほしい。
- ・地震が起きたときにどのような行動を取れば良いかが分かるような体験や映像をぜひ導入してほしい。
- ・元日に親戚で集まっており、地震発生の際、大人は全く行動できなかったが、子どもの行動は早かった。大人が四季防災館に来館するような仕組みも必要。
- ・災害時の衣服の備えができていないという意見もある。避難生活は長期戦になるので、衣服の備えに関する展示も必要
- ・富山県ならではの地震のメカニズムとか、液状化に関して認識を高めるようなものを導入してほしい。
- ・川が増水するとどのような変化があるかなどを学ぶことができるものも必要。
- ・映像は必要ではあるが、インパクトが強すぎるとトラウマになってしまう懸念もあるので、年齢に即したものを検討してほしい。
- ・ケーススタディであったり、そういったものを持ち帰る機能も検討してほしい。
- ・県民向けアンケートについて、リピーターの状況とリピーターがどのようにして生まれるのかを聞けたら良いと思う。
- ・来館前にインターネット上で学ぶことができる仕組みがあると良い。
- ・四季防災館前を通る路線バスがあるが、あまり知られていないので、そういったもののPRも必要。
- ・スタンプカードなどの何度も四季防災館を訪れたいくなる仕掛けもあったら良い。
- ・四季防災館は団体でないと見学できないと誤解される方もいるので、団体だ

けでなく個人でも見学や体験をできることをPRしてほしい。

<委員長意見>

- VR及びARをうまく用いれば、非常に臨場感のある体験ができるので、そういうものの導入は重要。
- 避難行動に関して、必ずしもこうでなくてはいけないというものはなく、災害の態様に応じてケースバイケースであるので、ケースによるクイズ形式のものも必要。
- 関西大学の城下准教授が次回の運営委員会に出席するので、本日いただいた意見と城下准教授のアドバイスを踏まえ、次回、審議することにさせていただきます。